



虹色

＝ 発行 ＝
 秋田県生涯学習センター
 〒010-0955 秋田市山王中島町1-1
 TEL : 018-865-1171
 FAX : 018-824-1799
 E-mail : sgscen002@mail2.pref.akita.jp
 編集担当：社会教育アドバイザー

“行動人”による「元気な秋田」づくり

「行動人」。耳目に新しい言葉ですね。「こうどうびと」と読みます。
 平成23年9月に『秋田県生涯学習ビジョン』が策定されました。ここで掲げるのは、「知と行動が結びついたクリエイティブな循環型社会」です。このビジョンは、「学んだことを行動に結びつける」という点を重視し、県民一人一人の行動力が結集して、活力ある秋田をつくる原動力になることを期待するものです。そのために、「すべての県民が行動人になる」ことを、めざす人間像として掲げています。

そこで、県民一人一人の“学んだことを行動に結びつけ社会に生かそう”という機運を醸成し、環境を整えることを目的とした『県民総「行動人」推進事業』が動き出しました。県教育委員会が主催し、当センターが主管する事業です。

具体的には、昔ながらの秋田のよさを守り伝える、新しい秋田のよさを創る、秋田のよさを再発見して広める……そんな姿で地域で元気に活躍している方々をホームページで紹介し、すべての県民が「行動人」になるきっかけや行動のヒントになる環境づくりを行います。現在、各市町村、各地域を訪問し、取材に当たってのご理解とご協力をお願いしているところです。どうぞよろしくお願いたします。なお、「行動人」ホームページは、9月の開設に向けたまい準備中です。



「7・10プロジェクト」ってなあに？

7・10→なっ・とう→「納豆プロジェクト」と読みます。

これは、6月1日、当センターで開催された「きちんと学びたい人のための生涯学習・社会教育入門」講座のなかで発表された社会教育活動企画案のネーミングの一つです。

講師の秋田大学教育文化学部原義彦准教授のワークショップでは、『子どもの学びと地域づくり』を課題に、「子どもによる地域の発見・再発見教室のプランニング」の演習が行われました。

伝え残したい地域のよさや誇れること、不思議なことなどにまず大人が気付くことから始めることが重要との観点に立って、県内各地区から参加した公民館等関係職員や生涯学習奨励員、社会教育委員の方々が10のグループに分かれて話し合いました。各地区の実践を情報交換するうちに、県が抱える人口の減少、働く場の創出など当面する課題を意識した地域づくりへと話題が広がっていました。

「7・10プロジェクト」のシナリオは、小・中・高校生及び大人を対象とした仮想案ですが、我が地域による我が地域のための…と意気込む姿がうかがわれ、まさしく“知と行動が結びついた循環型社会”の創造、『行動人』の在り方の一端が見えてくるような学びの一日でした。

また、全講座を通して、「協働～複数の主体が何らかの目標を共有し活動するコラボレーション (collaboration)」がキーワードとなること、及び教育活動には様々な人の知恵と行動力を借りることが重要であると伝えられました。

- 「7・10プロジェクト」の概略
- ◇県産大豆の安心安全を学ぶ
 - ◇大豆の加工体験と納豆料理コンテスト
 - ◇商品化と販売（地域高校生によるチャレンジショップ）
 - ☆日本及び世界ブランドに
 - ☆展望～交流&若者の定住！

おめでとうございます



6月2日(土)、124名のご参加を得て、総合開講式及び記念講演会が行われました。開講式では、『奨励証』の授与が行われ、7名の方々の学びに敬意を表するとともに、参会者皆様のこれからの学びの励みとなるよう共にお祝いいたしました。

児童・生徒・学生の受講料は無料です!

ゴールド・マナビスト		500	単位の修得です
武藤	良一 さん	(秋田市)	
吉川	綜一郎 さん	(秋田市)	
シルバー・マナビスト		300	単位の修得です
木村	政広 さん	(秋田市)	
村上	隆悦 さん	(湯沢市)	
伊藤	忍 さん	(秋田市)	
ブロンズ・マナビスト		100	単位の修得です
鈴木	敏男 さん	(秋田市)	
伊藤	忍 さん	(秋田市)	
柴田	睦子 さん	(秋田市)	

「あきたふるさと学講座」は9つの講座、62コマで展開されます。原則、1コマ400円の受講料を納めていただいておりますが、学校教育法で定める学校に在籍する児童・生徒・学生の皆さんの受講については無料となっています。是非、ご近所、ご家族でお誘い合わせの上ご参加ください。なお、シニアコーディネーター企画講座は、すべての方々が無料で参加できます。多数のご参加をお待ちしております。

ふくしまからの避難の現状
～原発事故後の14ヶ月～



5月26日、当センターにおいて美の国アクティブカレッジ・シニアコーディネーター企画講座「東日本大震災に学ぶ」(5回シリーズ)の最終講演が行われ、70名の方々が熱心に聴講されました。この日は、ちょうど昭和58年の日本海中部地震が起きた日で、県民防災の日でした。

講師は、『うつくしま県人会』事務局代表世話人で秋田大学教育文化学部准教授の紺野祐氏でした。

紺野氏は積み重ねられた詳細な資料を時系列に示して参加者に確認を促したあと、何が起きているのかについて、様々な「避難」のかたちによって具体的に話してくださいました。

私たちが報道で知り得た情報との差異や、避難者と福島に残っている人々の生活と意思の現状、すべての課題が“個人”に任されていることに関する内容が印象に残りました。

また、秋田県内避難者(5月現在1,052人)の内訳に関して、指定区域以外からの人数が多い傾向があること、さらに、世代別では、乳幼児と20～40代の女性、すなわち“子育て中の母親と小学生以下の子ども”の避難が多いという実態が示されました。

最後に紺野氏は、秋田の行政並びに民間の方々からの支援に感謝の言葉を述べられましたが、あわせて、「学齢に達しない子どもとママ向けの事業」や「10年単位での継続」が必要であることを強調されました。

本講座に関するアンケートの一部を紹介します。

- ☆ マスコミの報道と現実との差がよく分かりました。長い時間がかかる覚悟が必要であること、いつまでも忘れないで、何かできることをしていこうと思いました。
- ☆ 講義は具体的で分かりやすく話されたので、冷静に受け止めることができました。
- ☆ チェルノブイリ原発事故の未だに・・・の現実を思い、被災者の立場に立ち、これからも考えていきたい。この講演で多くのことを学ばせていただき、ありがとうございました。